

別記様式（第5関係）

会 議 録

会議の名称	第3回 西東京市青少年問題協議会
開催日時	平成14年1月28日(月) 午後2時00分から4時00分まで
開催場所	田無庁舎5階 503会議室
出席者	(委員)土井委員、遠藤委員、岡部委員、角田委員、川合委員、古賀委員、 嶋田委員、住田委員、瀬戸川委員、丸山委員、森田委員、 齋藤委員、小川委員 (事務局)落合参与、村野課長、原係長、大和田主事
議 題	1. 今後の会議の運営方法について 2. その他
会議資料	青少年問題協議会委員アンケート回答資料、 市民意向調査の内容と集計 結果、 旧田無市青少年問題協議会の意見具申
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録
丸山副会長	<p>只今から、第3回青少年問題協議会を開催する。本日の欠席者は、森下委員と須田委員である。</p> <p>開催通知と共にアンケートを送ったが、この件については、私と事務局の打合せで少しでも審議を早く進めたいということで、今後の課題等をお聞きしたので、ご理解いただきたい。</p> <p>第2回の協議会の中で資料の提出が求められていた。一つは、旧田無市青少年問題協議会の意見具申がある。もう一つは、11月に行なった市民意向調査である。また、それについての概要報告があるが、これについて課長から説明いただきたい。</p>
村野課長	<p>西東京市子育て支援計画に関わる調査結果概要報告の説明をする。</p> <p>この調査は、未就学児の保護者、小学生の保護者、中高生の保護者、25歳から29歳までの子どものいない者、中高生本人、小学4・5・6年生本人の6種類の調査である。ここに示してある調査結果は、最終報告ではない。最終報告についてはさらに内容を確認した上、クロス集計したり、グラフを入れたり、コメントを入れるなどし、3月に完成するように事務を進めているところである。そのような観点から資料ということで見ていただきたい。</p> <p>調査票とは別のA4判の資料は、6種類の調査の中で共通設問があるものを拾い、同じ設問に対しての中高生の保護者はどう思っているか、中高生本人はどう思っているか等をまとめたものである。</p>

<p>村野課長</p>	<p>色のついた調査票は、それぞれの調査について単純集計したものである。調査票については、以上である。</p> <p>次に、田無市時代の青少年問題協議会の要請と意見具申であるが、1点目は、田無小学校PTAから「青少年健全育成条例等制定の宣言」の要請があったことに対し、田無市青少年問題協議会としては、「前向きに検討すべきという認識だが、合併を控えているということで、新市に受け継ぎたい」という旨の回答をしたものである。2点目は「新市になっても青少年問題協議会を付属機関として設置したらどうか」という意見具申が提出されたものである。</p> <p>もう一つのA3の用紙は、各委員からのアンケートに対する回答を集約したものである。資料については、以上である。</p>
<p>丸山副会長</p>	<p>資料について説明があったが、これについて何か質問はないか。なければ会議次第の3番目の議題に進みたい。</p> <p>アンケートの問3が「今後取り組むべき課題・問題点」、問4が「解決策(案)」ということになっている。問1、2については、前回、各委員から取り組んでいる活動あるいは課題、問題点の意見交換をしているので、この問3、4を中心に意見を集約できればと思う。アンケートを見ると、いくつか同じような考え方をしている人がいるので、その中で要点を絞っていききたいと思う。それらを基にして専門委員会での検討材料にしたい。</p> <p>西東京市として青少年健全育成をこれからどう進めていくか、この意見をまとめ、専門委員会に掛けるようなやり方にしたいがよいか。</p>
<p>全委員</p>	<p>異議なし。</p>
<p>丸山副会長</p>	<p>それでは、土井委員から問3、4について説明いただきたい。</p>
<p>土井委員</p>	<p>私は、直接市が主体となって出来ることということで考えた。青少年の子ども達が地域で語らうことの出来る場所、または軽い運動が出来る場所がないという声があるが、私もそう思う。そういう場所を健全育成のための条件整備として、市として整備する必要があると思う。</p> <p>また、市民意識調査の内容を見て思ったのは、求められているものが気軽に相談できる場所ということであるようだ。また、児童館がその体制になっていないということもあるが、余り知られていない、利用度も非常に低いということがこの調査を見て感じた。そこで今声が出ている集いの場所とあわせて、青少年が当事者として市の施策、地域の町づくりに参加できるような、もしくは意見が反映できるようなシステムを市として作っていく必要があるのではないかと考えている。そこで、2つの意見を今後取り組むべき課題として取り上げた。</p> <p>解決策については同じである。その下にあるのは、協議会はあと何回あるのかということが気になっており、今後テーマを具体的に絞って、先に進めていかないと予定した会議の回数で具体的な答申が出せるのかと心配して、このことを記入した。私からは以上である。</p>

丸山副会長	次は角田委員にお願いしたい。
角田委員	<p>私は、学校週5日制がもうすぐ実施ということで、対策を考えた。週5日制の狙いというのは、子ども達に自分で生きていく力を育てるために家庭に戻すということで、今まで準備されてきた。しかし、いざ始まるとなると、働く母親の問題や親と子の意思疎通の問題などいろいろな問題が出てきている。こちら側としては、青少年問題協議会の回答を待っているという状態である。今後の問題に対して、前向きに取り組んでいきたい。</p> <p>今大切なのは、地域としてのスポーツ活動の振興をどう進めていくかだと思う。特に中学校のクラブ活動への協力、人材派遣、さまざまな分野の指導者をどう活用していくかである。地域には、素晴らしい人材がたくさんいる。また、そういう人達が役に立つならば、是非使ってくださいという声がかかなり出ているというので、その人材をどう使っていくかである。</p> <p>また、そういう指導者の研修やカリキュラム作り、場所の確保など今後具体的に考えていかなければならないと思っている。</p> <p>解決策としては、地域人材バンクの名簿作りが考えられる。</p> <p>また場所の確保としては、土日の学校を地域に開放して、パソコンや英語などの教材、遊び場、スポーツなど、いろいろなものを子ども達や親子で自由に選択して、いろいろな体験ができる場とする。つまり、自由学級、自由学校といったものとして開放していくことは出来ないだろうかと考える。</p> <p>また西東京市には、自然体験できる場所がたくさんあるので、定期的に自然体験教室を行い、親子で喜びが味わえる場の提供ができないだろうかと考えている。これは、今すぐというわけにはいかないが、長期、中期、短期に分けて考え、目標をたてれば出来るのではないかと思う。</p> <p>委員として学校5日制についての受け皿作りを考えていくだけでも大変だと思う。</p>
丸山副会長	それでは、瀬戸川委員にお願いしたい。
瀬戸川委員	<p>私が感じることは、子どもというよりは、家庭の問題が多く出ているので、大人に対する支援の場を多く作って行けたらいいのではないかと考えている。</p> <p>最近の事件にあるとおり、大人は事件に巻き込まれるといけないと思いい、危険を感じて注意をしない姿をよく見かける。大人も地域に目を向ける、子どもに目を向ける、そういう社会を作って行けたら良いのではと思う。</p> <p>隣近所の付き合いが少ない現代なので、学校がいろいろな面で集える場所、人脈に目を向けた機会を作れる場であれば良いと思う。子どもは遊び場として、大人は子育てに関する相談ができる場として、教育委員会とか、福祉とかに関係なく、もっと一般の人達が使いやすいような学校にしていだけたら良いと思う。</p>

丸山副会長	<p>次は、川合委員にお願いします。</p>
川合委員	<p>私は、地域の健全育成、育成会の関係で、ここ数年、中学生のボランティアを取り入れた活動をしている。そこで感じることだが、子ども達が集まっても、まとめられる大人が少ない。そこで子どもと関わる大人の育成というのが必要であると思う。先ほど角田委員もいっていたが、地域にはたくさんの人材いるので、そういったものを活用していくことも勿論であるし、子ども達が生き生きできるような場所を与えてあげることも大切だと思う。そういうところに集まってきた子ども達に、大人が適切なリーダーシップを取りながら、子ども達を育成していくのが必要だと感じている。</p> <p>大人をどう育てていったら良いかということに関しては、やはり行政がそういう場を作った方が望ましいと思う。</p> <p>先ほど、地域の人材の使い方ということで話が出たが、学校にはまだ受入態勢が出来ていない。こちらから、私はこういうことが出来るからやりませんかといっても、学校にはそういう余裕がないように思う。だから、こういった場で、教育現場とこういった立場の行政の方とのコミュニケーションを取っていかなくてはいけないと思っている。皆さんが、考えているようなことも同じではないかと思う。</p>
丸山副会長	<p>次は嶋田委員にお願いします。</p>
嶋田委員	<p>私の資料の「西東京市の健全育成の有り方について」を提案したい。提案の1、2、3、4、5と書いてあるもののうち4つについては、市長からの諮問に対する回答はこういうことを答えればいいのかということを書いてある。この4つについてある程度解決できれば今後の健全育成については、相当解決するのではないかと思うので、細かく提示してある。</p> <p>私がいつも感じているのは、小学生またそれ以下の年代については手厚く活動している人が多いが、中高生年代になると非常に少なくなってしまっているので、育成会等を中心に中高生に対する何らかの活動を活発化させていく必要があるのではないかと思う。</p> <p>内容1番の「活動場所の提供」については、先ほどから児童館の活用とか出ているが、今日いただいた市民意向調査結果にもあるとおり、小学生の27%は「今後も児童館を利用したい」と答えているのに、中高生になると8.5%しかいない。これは私の地元でも感じることである。予算の問題等のことがあるので、すぐに青少年センターを作るという構想が無理であれば、既存の児童館のハード面、ソフト面を整備し中高生も利用しやすい施設にしたら良いと思う。</p> <p>また川合委員もいっているが、中高生にボランティア活動の場が与えられていないので活動する場を提供することが必要だと思う。</p> <p>2番目に活動する団体の支援としては、私も個人的に「フリースペース・とんぼ」というものをやっており、常時30人の子ども達と向き合っており、いろいろ活動している。そのような団体が大きなり、小なりある。しかし、なかなか行政から援助を受けられず、非常に難しい活動を強い</p>

<p>嶋田委員</p>	<p>られているということがあるので、その辺の支援も必要と思う。</p> <p>次に、中学生の健全育成に関する指導者の育成であるが、必ずしも専門の指導員ではなくても、例えば大学生でもボランティアとして登録してもらい、そういう方達を指導者として養成していく方法も考えられるのではないかと考えている。</p> <p>4番目の情報提供だが、どのような団体がどんなイベントをやっているか、そういった情報も即座に分かるようなシステムが、今後求められるのではないかと考える。</p> <p>今、問題点と解決策を一緒に話してしまったが、その下の「その他」について説明すると、合併してから一年以上が経つが児童青少年部として青少年対策のビジョンが示されていない。西東京市として青少年対策はどうやって行きたいのか、どのようにしてほしいのかが見えない。だから青少年問題協議会を立ち上げて、問うているといえるのだろうが、やはり児童青少年部ができた以上は、児童青少年部として何らかのビジョンを示していただきたいと思う。</p> <p>それから、この協議会には、確かに角田委員が教育委員会から入られているが、教育委員会社会教育課に社会教育主事がいるので、そういう方にも入っていただき、現実の子どものことや、社会教育のことなどがどうなっているのか、今後学校5日制に移行して行くにあたってそのあたりを検討するためにも、意見を聞きたいと思った。以上である。</p>
<p>丸山副会長</p>	<p>次は、古賀委員にお願いしたい。</p>
<p>古賀委員</p>	<p>皆さんと似たようなことであるが、日常的に子ども達がいる場所がないと思う。特に中高生であるが、いわゆる「たむろ」する場所がない。</p> <p>彼らにとって話をするという事は、非常に大切なことであり、一昔前ならそういった空地もあったのだろうが、そのような場所が今は無い。学校も授業が終われば出て行かなくてはならない。どこかの道端でたまっているといわれるし、駐車場などの隅っこでお喋りしているというのが子ども達の実態である。杉並区や町田市の青少年施設を視察して思うが、本当に利用されている場所というのは、「たむろ」することが出来る場所である。スポーツをなさないとか、あれをなさないと、これをなさないとという規制がかかっていない場所、本当に自由に友達と話すことが出来る場所が必要なのだと感じる。</p> <p>今児童館では、中高生が利用しにくい状況になっているということなので、例えば子ども達が運営協議会に関わるとか、子ども達を取り入れて施設を運営して行くなりして、開放の時間を長くするなどもっと子ども達が利用しやすいようにすることが大切だと思う。</p> <p>そういう具体的な場所の提供と、もう一つは、青少年に今自分が大切にされている、今私達が必要なのだという、そういう意識を持たせることが大切だと思う。</p> <p>今日は資料を出していただいたが、旧田無市青少年問題協議会への要請書は、そういう観点からも出たことで、やはり子ども達が意識を持つための一つの手段として、例えば条例を作る。大人として、市として、街として「子ども達を大事にしているよ、大切にしているよ、子ども達</p>

古賀委員	に育ててほしいのだよ」ということを示していくことが大切だと思う。それと、嶋田委員からも出ていたが、学校と地域の連携ということが大事ではないかと思う。
丸山副会長	次に、住田委員にお願いする。
住田委員	<p>現実に大人と子どもが関わる中で、問題点というのはいくつかあると思う。</p> <p>問題を考えるときに、子どもの問題と大人の問題の二つがあると思う。子どもの問題に関しては、前から出ている居場所の問題。それ以上に、大人が子どもに関わる問題というのが非常に大きいと思う。そういう大人の関わり方、心が結束する一つの場として、健全育成会というのがあると思う。行政側にも大いにバックアップしてもらい、今後の育成会を育てていただきたいと思う。</p> <p>それから、子どもの居場所についての件であるが、私のアンケートの1に『書道会「みどり会」の運営』というのがあり、こんなものを何で書いたのだらうと思われる方がいると思うが、この会では、子どもと大人の接点を作っている。普通「習字の会」は、子どもの会と大人の会を分けているが、私達はあえて一緒にすることにした。今、中学生から高校生、大学生が来ている。大人の目がある中で子ども達が共通の趣味を持つもの同士の溜まり場として使っている。</p> <p>大人と子どもが親しくなれる場を作してほしいと思う。</p>
丸山副会長	それでは、森田委員お願いしたい。
森田委員	<p>同じような考えを持っている方がいるので、大変力強く思う。</p> <p>昔は、子ども達が遊ぶ場所というのが多かったように思う。私は、ずっと保谷に住んでいるが、以前はキャッチボールをする場所があった。車も少なかった。ちょっとした農家の空地などがあって、遊ばせてもらったことがたくさんある。自然の中で四季を感じることもあったと思う。しかし、最近の子ども達を見ていると、のびのび歩く場所も無い、立ち話をする場所も無いといった環境にどんどん押し込められているように感じている。</p> <p>そこで、私は大変身近なことからここに書かせていただいた。</p> <p>自分の身近な生き物の名前や花の名前、また、生物がどうやって育つのかということに目を向けて、始めて人間に対する思いやりと敬うことが出てくるのではないかと思うので、子どもを自然の中に連れ出し、いろいろな体験をさせることが必要だと思う。</p> <p>先ほどから出ているが、野外活動をするにしても、やはりリーダーが必要になってくる。そういった方々は、ちょっと調べればいろいろな所にいる。その方達の力を借りて、市内にリーダーを養成していく。こういうことは、やろうと思えば、すぐにでもできることだと思う。</p> <p>小学生・中学生を自然の中に連れ出し、頭の中を空っぽにするような時間が持てる機会、機関を市が作ったら良いと思う。以上である。</p>

丸山副会長	次は遠藤委員お願いしたい。
遠藤委員	<p>私は、皆さんと考えていることがつくづく同じなのだと思います。</p> <p>子どもの生活というものは、地域を基盤にして成り立っている。またはそうさせなくてはいけないのだということが前提になっているということである。そうすると地域での子どもの生活というのは、安全な生活をさせなくてはいけないし、どんな場合でも被害者にさせてはいけないということである。</p> <p>そのためには、地域で安全に生活することが出来る環境整備をする必要があると考える。それには、大人達が自分達の地域の環境を整えるために自主的な活動を率先して、協力してやってかなければならない。放っておいてはいけない。皆さんから提案があった活動・人材発掘・場所などのことを、子ども達・青年達と一緒に考えていけたら良いのではないかと考えた。</p>
丸山副会長	それでは、小川委員お願いしたい。
小川委員	<p>昨日、東村山市で路上生活者への殺人事件があった。これはまさに青少年の犯行ということで4人のうち3人が家庭裁判所へ、1人は児童相談所へ送致ということになった。</p> <p>新聞やテレビによると、余り問題を抱えていないような少年達であって、今までも相談所には関わっていなかった。だから、普通というよりはちょっと問題はあるけれど、そんな決定的なことはしなかったということだ。そういうことからすると、私も3番の「今後取り組むべき課題」というところを書いておいたが、地域の中で気軽に挨拶するようなコミュニケーションが非常に重要だと思う。</p> <p>先ほど古賀委員の発言にもあったが、児童館の夜間開放をしたらどうかという話が出て、私はうなずいてしまった。先ほどの話の殺人事件は、図書館でたむろして、騒いでいたところを殺された人に注意されたことが切っ掛けである。図書館は静かに勉強したり、調べ物をしたりする場所なのに、いつの間にかこの少年達の溜まり場になり、悩まされるという状況になったことを非常に残念に思う。</p> <p>だから、大人の管理も余り強くないところで、こういう子ども達が安心して話すことが出来る場所を市で用意できればと思う。</p> <p>また、子どもを連れのお母さん達が集ったり、相談にのったりできる場である「子ども家庭支援センター」を早く西東京市でも立ち上げていただきたいと思う。それが地域のネットワーク作りの基礎になると期待している。</p> <p>それから、調査結果の概要が出たということだが、その他に「自由に書いてください」というところがあると思うので、それをよく集約していただきたい。一般の市民が出した意見を噛み砕いて、分析でき実行できたらすごく良いと思う。是非、そうしていただきたい。</p>
丸山副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、私の方から説明させていただく。</p>

丸山副会長	<p>4月から学校週5日制になるということで、この青少年問題協議会でも居場所の問題が出ている。先日新聞に掲載されていたが、週5日制になったら半分以上のお母さんは、塾に行かせるという。そして、学習しなければだめだという意見がかなり多い。しかし、折角の週5日制なのだから、せめて1週間の1日ぐらいはのびのびしてもらいたい。そのためにも活動出来る場所が必要ではないかと思う。ただ活動できる施設を作るだけではなく、この中でいろいろと相談が出来る場を同時に設置していくことが必要であると思う。また中高生には、ミニスポーツが出来るような場所や仲間同士で集まってお喋りしたり、自習が出来るような役割の施設が必要ではないかと思う。</p> <p>それから、青少年の社会参加活動の振興であるが、先ほどからも出ているとおり、ボランティア活動やスポーツ・文化活動を推進していく必要があると思う。このような中で人間関係を密にしながら、のびのびと社会参加活動をしていく必要があると思う。</p> <p>最近は大人数でも挨拶をしない人が増えている。挨拶運動をしているところもあるが、もっと大人がしっかりしないと、子ども達にいろいろ言う事は出来ないのではないかと思う。そういう観点からいくと、子育てにおいては、大人のお家庭における責任がかなり重要であると思う。そこで、大人に対して知識の普及、広報活動、学習活動などが必要ではないかと思う。</p> <p>これからは、大人が近所の人たちと挨拶などを通じてコミュニケーションをとることにより、地域において一体となり健全育成活動に取り組むことが大切であり、子どもを責めるよりは、先ず大人を改革していく必要があるのではないかと思う。</p> <p>なかなか難しい問題ではあるが、地域の大人同士のコミュニケーションをうまくしないと、子どものことは言えないのではないかと思った。</p> <p>一通り意見が出終わったが、齋藤委員は何か意見があるか。</p>
齋藤委員	<p>この市民意向調査や委員のアンケート調査の結果は、大変よく調査されていて、参考になると思う。</p> <p>参考としてひとつ話をしたい。</p> <p>団地の前に少年達が連なっていて自分の家に戻ることが出来ないという通報があった。警察が注意してもイタチごっこの状況であった。調べてみると少年達は全部地元の子もあつた。そこで、住民の方達が立ち上がり、パトロールする組織を作り、警察と一緒に注意したことがあつた。一番効果があつたのは子どもの名前を呼ぶことだつた。「誰々君、もう深夜だから帰りなさい。」という、1ヶ月、2ヶ月するといなくなつた。</p> <p>ここ数年、近隣住民との揉め事が随分あるが、そういう所は隣や近所の子ともコミュニケーションが取れていないと思う。地域の方同士もっと親しい関係が築けたらと思う。大変だとは思つたが、一つ一つ段階を超えていかなければならないと思うので、一緒に協力していきたいと思う。以上である。</p>
岡部委員	私だけアンケートを提出していなくて、大変申し訳ないと思つてい

<p>岡部委員</p>	<p>る。ただ、この協議会が出来たときから、困っている。というのは、私は、校長であるから、その枠組でしか発言が出来ない。</p> <p>東村山の事件の話が出ていたが、対岸の火事ではないと思っている。本校に置き換えても、いろいろな生徒がいて、いろいろな問題があるので、他人ごとではないと思っている。</p> <p>今皆さんから提言があったが、学校という立場からいえば、これから週5日制に移行するに当たって地域でいろいろな活動をしていただけると、本当に助かる。</p> <p>それから、部活動への協力であるが、これも大変ありがたい。今学校では、部活動をどうやっていいたらいいか、非常に大きな問題になっている。これは顧問が高齢化し、なかなか顧問の成り手がいないという状況があり、顧問がいなければ部活動は出来ないということで、部活そのものが問題になっている。部活動への協力はもっとやっていただくと助かる。</p> <p>また、どの学校でも不登校とは違うのであるが、学校に行かないという生徒が何人かいる。そのような生徒の中には、友達の家を転々と泊まり歩く子や深夜徘徊し地域に迷惑をかけている子もいる。学校から指導もしにくい状況にあり、そういう生徒に、学校としてどう手を差伸べたらいいのか大きな問題だと日々実感している。</p> <p>やはり行政として、何か手を差伸べていただきたい。学校には限界がある。学校で出来ること、出来ないことがあるから、学校以外の機関で、教育をしていただきたい。</p> <p>それから、そういう生徒の親、保護者に対する対応であるが、学校は親に頻繁に連絡を取っているが、なかなか連絡が取れない。取れても教員がそういう家に入って、親に指導することは難しい。そのような保護者に対して、例えば、地域の民生委員とか、児童相談所にもう少し強い権限を与えて、その家庭に入って、親に話をする、支援していく、指導していく、そういうシステムが出来ないかと思う。</p>
<p>嶋田委員</p>	<p>今の話を聞いて身近に感じている。実際、困っている問題があって、小平児童相談所に相談にのってもらったりしているが、なかなか児童相談所も忙しくて手が回らない。親もそういう子どもに対して全く無関心・無責任である。警察にも相談するが、なかなか難しい。</p> <p>そういう場合の解決方法として、家庭裁判所の調査官に相談する方法も一つではないかと思う。しかし、それを中学校の先生がやるというのは、非常に問題があると思う。言葉は悪いが、「先公が売った」というようなことが出てくる。やはり地域の民生委員や主任児童委員、旧保谷の制度にあった青少年委員のような人に相談することになると思う。</p> <p>私も個人でフリースペースをやっているので相談にのったりしている。岡部委員から意見が出ていたが、行政に権限を持たせるというのは、何年かかるか分からない状況であるので、むしろ地域で相談に乗れるような人材を発掘していくことが先決問題だと思う。</p> <p>また市にも、そういう相談を受ける窓口を作っていただきたい。確かに岡部委員がいわれたように、今回の東村山の事件については、現実問題として学校内で起きた事件ではないのに、何であんなに校長先生や教</p>

	<p>育長が出てくるのか分からない。それよりむしろ、親や地域の人にコメントをしてほしい。校長先生の責任にするのは酷である。あのような子どもを野放しにしていたのは、地域の責任、大人の責任だと思う。</p>
齋藤委員	<p>新聞を見ると、問題の子ども達には補導暦がない。しかし、深夜徘徊があったという。それが問題行動となって出たのだろうと書かれていた。この深夜徘徊というのは、そのまま放置しておく、恐喝などに発展する可能性が大きい。青少年犯罪を未然に防ぐためには、地域の各関係機関が情報交換することも大切なことだと思う。</p>
遠藤委員	<p>夜、徘徊をしたり、タバコを吸ったりというような話があったが、そういう時になかなか1人では、注意できない。だから、団体で注意できる仕組みを作ったらいいと思う。</p>
嶋田委員	<p>吉祥寺にそのような活動をしている団体がある。 そのような団体の指導者を育てることも必要だ。</p>
瀬戸川委員	<p>今、岡部委員がいった仕組みというのは、どういうことなのか。民生委員や主任児童委員は、そういった事例について児童相談所の方に回っていただいたり、関係機関の合同ケース会議を開いたり、皆で協力して子ども達を守っていきたいと思い活動している。</p>
丸山副会長	<p>各委員の活動について、話を聞いてきたが、これらを参考にしながら進めていきたいと思う。 今後のスケジュールの問題であるが、2月に協議会を1回開催し、その次の開催は5月になる。そこで2月には答申のためのメインテーマを絞っていきたい。前々回に嶋田委員からも出ていた専門委員会を、5、6人ぐらいで作っていきたい。その中で十分検討し、その内容を今後の全体会に持っていき、皆で協議しながら、答申を出したい。 テーマについては先ほど嶋田委員の方から出してもらった資料にある活動の場の提供、活動する団体への支援、指導者の養成、情報提供でいかがか。</p>
嶋田委員	<p>テーマについては、皆さんから出してもらったアンケートの内容を絞っていけば、自ずと出てくると思う。それで検討すればいいのではないか。</p>
土井委員	<p>今までの話を伺って、いろいろ難しいと思った。 一つは、市は何が出来るのかということ。市長に答申するわけだから、こういうことをしなさいといったときに、市には何が出来るのかということ。 もう一つは、西東京市の子ども達の現状把握を踏まえた施策ということになるわけだが、現状把握の中では、家庭の問題、地域の問題、コミュニティーの問題などがあるということまではいえたとしても、それでは、市としてこういうふうにしなさいとどこまでいえるのかと思った。 アンケートを見た中では、一つは、子ども達が地域で集ったり、過ご</p>

	<p>したりする場所が必要なのではないか。もう一つは、地域の子ども達を育てる基盤整備の必要性である。家庭とか、コミュニティーとか、人材について、市が側面から援助していくような施策を出していく必要があるのではないか、というようなことが書かれていると思う。私はアンケートを見てそう思ったが、次回また皆さんの意見を出していただいてから、それを議論して、次に行くというのはどうかと思った。</p>
<p>嶋田委員</p>	<p>土井委員のいったとおりでいいと思う。</p>
<p>丸山副会長</p>	<p>諮問では、「活動の場の提供、活動する団体への支援、指導者の養成、情報提供や基盤整備等の施策を積極的に進めていく必要があります。」となっている。</p> <p>皆さんのアンケートの中にも、これに関するものはかなりあるので、嶋田委員から出ているように四本柱ぐらいに絞って詰めていきたいが、それでよろしいか。</p>
<p>土井委員</p>	<p>やり方としてはそれでいいが、私はここに出されていることだけではなく、西東京市の子ども達の問題というのは具体的にいくつかあるが、もっと一般的、全体的なものを出して、それを解決するためには、どんな方法があるだろうかという意見を出し合い、その中で、市で出来ることと地域の皆さんにお願いすること、協力して出来ることというものを整理する必要があると思う。そういった形で、一度出し合うようなことが必要なのではないか。</p> <p>このアンケートにもいろいろ出されているが、例えば、古賀委員の出されていることを踏まえて、もう少し活動場所や支援について、こんなことが考えられる、あんなことが考えられるなどを全部出して、整理するというようにした方が材料としては、たくさん出てくるのではないかと思う。柱を立てて個別にやってもいいが、今まで出されたことだけが、対象とされるのではなくて、もう少し出てくるものがあるのではないか。そうしたものを全部含めて、答申として使えるものは使うというようにした方がいいと思う。</p>
<p>角田委員</p>	<p>アンケートに対する質問があるのだが良いか。</p> <p>その他の今後の課題というところに「教育委員会との接点、教育委員会との連携」ということが出てきたが、これは何のために、どうして必要なのか、ということを知りたいと思う。</p>
<p>嶋田委員</p>	<p>教育委員会からの情報は、なかなか提供がされないという現状がある。</p> <p>西東京市の中学校9校の中でどのような問題があって、具体的にどのようなことが起きているか、という情報が全く提供されていない。そういう問題を皆さんと同じ土俵に立って、話し合うためにも是非教育委員会の方に入っていただいて、学校現場でどのような問題が起きているのか、どうしたいのかという話をお聞きしたい。</p> <p>それから、もう一点は、青少年の社会教育について社会教育主事や指</p>

	<p>導主事の意見を聞きたいということで発言した。</p>
川合委員	<p>私達は子どもに関わるわけだから、学校との関わりは非常に大きい。</p>
古賀委員	<p>私は、育成会活動の中で学校設備を使わせてもらうことがあるが、子ども達のために活動をしているのに、どうもそここのところが理解されていないように感じる。学校側に育成会が理解されていないことがあって、校長先生や教頭先生が替わると、地域の状況をご存知ないので、「育成会が出入りするのはいくはない」というような発言があったりする。こちらとしては連携をとって行きたいと思っているということをおきたい。</p>
瀬戸川委員	<p>主任児童委員として関係機関との連絡調整という立場を考えれば、学校は特に連携が必要なところである。教育委員会からはなかなか情報がもらえなかったり、学校側の体制も門戸を開いてもらえないというようなことが多々ある。</p>
嶋田委員	<p>ここに名前は出さなくても、例えば事例発表ということで出来ないか。また、私でさえも分かってしまう事例を、今更、隠したってしょうがないのではないか。</p>
角田委員	<p>すべての情報を提供するというわけにはいかない。 教育委員会としては、ここで答申されたもので、学校関係と一緒に何が出来るか、家庭では何が出来るのかということをお考えしたいと思っている。教育委員会はここで出てくるものを待っている。</p>
丸山副会長	<p>健全育成対策については、確かに子育てだけの問題ではない。今までの発言のとおり、学校関係も関連するし、全体的な話だと思う。 それでは、次回は諮問にある 活動の場の提供、 活動する団体への支援、 指導者の養成、 情報提供、 その他の5本の柱について皆さんから具体的に意見を出し合ってもらい、答申の材料としていきたい。それに基づいて専門部会を設置し、つめていきたい。 なお、次回には専門部会の委員を選出するというおこと進めたい。よろしいか。</p>
全委員	<p>異議無し。</p>
丸山副会長	<p>次回は、2月27日水曜日、午後1時30分から、インゲビル3階、第3・4会議室で開催する。 他に意見がなければ、これで終了する。</p>